

としょぶらり

米子高専図書館報

ISSN 1344 - 5634

第101号

平成28年8月3日 発行
米子工業高等専門学校図書館

リベラルアーツ センターについて

校長 氷室 昭三

平成28年4月1日、本校図書館の2階にリベラルアーツセンターが設立されました。リベラルアーツとは誰でもが身につけておく教養としてとられるとわかりやすいと思いますが、教養の概念については諸説があり、その定義づけは決してやさしくはありません。ここでは、教養を個人の人格の形成の基盤となるもの、そして社会生活のなかで他者と協同して「生きる力」を形成する知識の体系と定義しておきましょう。

平成21年に(社)日本経済団体連合会から「競争力人材の育成と確保に向けて」が出されましたが、企業が求める「人材像」の要素は、「自主性・積極性」「進取の精神」「柔軟な発想と深い考察力」「コミュニケーション力」「国際的な視野と多様性の受容」などでした。また、学生時代に若者が身につけておくことが望ましい資質としては、外国語能力(特に英語力)を含む国際的な視野、物事を考察する際の基礎となる思考力、

それを支える深い教養、自主性・積極性を促す多様な知識・経験などが挙げられるそうです。これらを考慮すると、国際化対応能力を含めた教養教育の充実は、これから社会に出る若者には極めて重要であるといえます。

また、一般的に「ビジネス」と「リベラルアーツ」は関係性の薄いものと捉えがちですが、グローバル展開が進むいま、企業における哲学をはじめとする教養教育があらためて見直され、人材育成の重要な役割を担う動きが出てきています。なぜなら、グローバルビジネスを展開する企業においては、相手の文化的・思想的背景を理解し、その違いからくる認識の差異を把握するだけでなく、自国の文化について説明でき、教養豊かな会話を展開できることも必要だからです。

知識人としての教養・見識を学ぶことで、「哲学・人間観」「歴史観」「世界観」「倫理観」などを切り口に賢者の知識や思考法に触れ、知識人・社会人としての視野をより拡大するとともに、物事の判断軸や精神的豊かさを醸成することが重要です。

ぜひ図書館を利用して、こうした教養を身につけることで、「生きる力」の基礎となる感性を磨き上げてください。リベラルアーツセンターは図書館等とも協力してそのお手伝いをします。

目次

リベラルアーツセンターについて	1
リベラルアーツセンター 設立式	2
新任教員おすすめの本	5
新任教員 図書に関する座談会	6
2015年度 学生表彰文化系クラブ等活動の紹介	8
文化系クラブ活動・同好会の紹介	10
図書館を利用した授業・学会発表と研究交流	
・ 図書館交流プラザを利用した建築授業	11
・ 弓ヶ浜セミナー	11
・ 日本民俗建築学会 第43回大会 開催	12
図書館統計	13
学生図書委員一覧	14
リベラルアーツコーナー 図書一覧	15
読書会についてのお知らせ	20
米子高専 文化セミナー	20

米子工業高等専門学校 リベラルアーツセンター 設立式

2016年(平成28年)5月21日(土)
会場: 米子工業高等専門学校図書館情報センター

開会挨拶 (13:00~13:15)

米子工業高等専門学校長 氷室 昭三

基調講演 (13:15~14:00)

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

「いま、何故リベラルアーツか」

トークセッション (14:00~14:55)

「リベラルアーツとは何か」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博

コーディネータ: 米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター

副センター長 加藤 博和

閉会挨拶 (14:55~15:00)

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長 熊谷 昌彦

施設見学 (15:00~15:30)

説明: 米子工業高等専門学校建築学科准教授 高増 佳子

研究会 (15:30~)

情報交換会 (17:30~)



【開会挨拶】

高専における教養教育の

充実について

米子工業高等専門学校長 氷室 昭三



高専の目的は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」で、この中にある“学芸”であるが、それは“学術”と“技芸”の意である。高専において実際上中心的に教授される内容に則して言えば、学術およびその応用技術を意味しているということである。また、“職業に必要な能力”には、職業に必要な各種の能力を含み、単に特定分野の職業に必要な専門的、技術的能力のみならず、一般職業人として、また、社会人として必要な知的、道徳的能力も含まれていると考えたい。

このことに関し、昭和46年の中教審答申が参考になる。「高等専門学校は、おおむね現行の高等専門学校に相当するものであるが、現行の工業、商船関係以外にも、このように早くから専門教育を施すことが適当な職業教育の分野への拡充が考慮されるべきである。また、今後、たとえば、大学入学試験の好ましくない影響から解放され、青年期における人間形成に重点をおくという目的をもって義務教育修了者に5年程度の一貫教育を行うことも検討する必要がある。」と述べられ、

高専は、このときから「専門職養成の目的」と「人格養成の目的」をもつことになったようである。

このような背景から高専では若年技術者教育の観点から丁寧な授業、生活指導、課外活動の指導など、きめ細かい教育が行われてきた。ここに高専教育の優位性を見ることができる。しかしながら、平成23年1月に出された中教審答申「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、「高専の入学者は、技術やものづくりへの関心が高く、比較的目的意識が明確であるが、そのような中でも入学者の意識は多様化してきており、15歳からの5年一貫教育の中で勉学に対する動機付けを維持・向上させていくことには困難が伴う。また、高専の卒業者は、企業からその専門的知識やコンピュータ活用能力、誠実さなどが評価されている一方で、コミュニケーション能力については期待値に比べて評価が低い。」ことが指摘されている。

一方、平成21年(社)日本経済団体連合会「競争力人材の育成と確保に向けて」によると、企業が求める「人材像」の要素は、「自主性・積極性」「進取の精神」「柔軟な発想と深い考察力」「コミュニケーション力」「国際的な視野と多様性の受容」などである。また、学生時代に若者が身につけておくことが望ましい資質としては、外国語能力(特に英語力)を含む国際的な視野、物事を考察する際の基礎となる思考力、それを支え

る深い教養、自主性・積極性を促す多様な知識・経験などが挙げられる。これらを考慮すると、国際化対応能力を含めた教養教育の充実は、これから社会に出る若者を教育する上で重要な柱とすべきである。

【基調講演】

「いま、何故リベラルアーツか」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美



現在、我が国の政治、経済、教育等のあらゆる分野にわたって解決すべき大きな問題や課題が横たわっている。国レベルでは財政再建、経済・産業のグローバル化への対応、高等教育改革等があり、地方では少子高齢化対策や地方創生等が重要課題となっている。

このような問題や課題の発生は、戦後我が国が歩んできた高度経済成長時代の思考法や各種法制度・政策などの限界が顕在化してきていると考えることもできる。中でも高等教育の問題に関しては、20年以上も前から教育内容、教育制度、財政問題、社会貢献等の面からの改革が求められており、平成16年には国立大学法人化、及び高等専門学校については独立行政法人化が進められた。

このような社会情勢の中で、平成20年12月24日付けの中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」では、とくに教養教育の重要性の観点から、「創造力の涵養のためには、専門的な知識や技術はもちろん、リベラルアーツや幅広い総合知識の修得が重要であり、そのような面にも配慮した教育カリキュラムと教育環境の整備が重要である」という答申がなされた。このような答申の背景には、戦後の我が国の社会、文化、価値観等の変化や国際的な経済産業の構造と枠組みの変化などがその根底にあることが認識されている。

本基調講演では、まさに今日本の工学教育・技術者教育の根源的な変革が求められているという観点から、その一翼を担う高専教育のあり方を問うとともに、今後の50年間に通用する教育体系を創り上げていくことを目標とし、また今後の議論と研究の基盤とするために、以下の視点からの問題点と課題、及び広く研究対象とすべき事柄を提起する。

- (1) 科学技術成熟化社会と経済産業グローバル化時代における技術者や工学者に求められる資質と能力は何か、またそのような人材を育成するための教育は如何にあるべきか
- (2) 若者の理工系離れと日本の工学教育・技術者教育の危機及びその克服の必要性

- (3) 高等教育機関としての高専における教育および教育制度の特徴と社会的使命－教育制度と教育課程に関する学術的研究の必要性（教育学や教育社会学者の参加が必要）
- (4) 地方創生時代における高専の工学教育・技術者教育（職業人・産業人としての人材育成教育を含む）の役割、社会がそれに期待するところは何かの究明
- (5) 高専におけるリベラルアーツ教育－内容と方法論の確立の必要性と重要性、西欧の大学の教育制度と諸概念（liberal arts, sciences, arts and humanitiesなど）、日本社会に根差したliberal artsやarts and humanities教育の模索、技術と技能の違いの究明 など

【トークセッション】

「リベラルアーツとは

－イギリス教育の仕組みからみえるもの－」

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子



〈プロフィール〉

The University of Manchester
M.A. (Master of Arts) in Urban Design and Regeneration
1級建築士 株式会社住環境学研究所を経て、2009年から石川高専勤務
福岡市都市景観賞 特別賞、日本都市計画家協会 最優秀賞 日本まちづくり大賞等
建築だけでなく環境とともに快適に暮らせる仕組みづくりの研究を行っている。

リベラルアーツとは、西洋世界の学術・学問の基礎で、生きるための力や自らを開放するための知識を身につける古代ギリシアで生まれた概念である。リベラルアーツ教育は基礎的な教養を形づくり、人としての根幹部分をつくる学びで、リベラルアーツ教育を通して異なるものへの理解を持ち、自身のアイデンティティを確立していくグローバルな人材を育成する基礎となるものである。

イギリスでは義務教育は11年間で、初等教育（5歳～11歳）と中等教育（12歳～16歳）に分かれる。15歳～16歳の2年間は、GCSE (General Certificate of Secondary Education) 課程といわれ、修了時にGCSE全国統一試験をうけ修了認定としての評価を受ける。義務教育終了後の生徒の進路は、就職、職業資格取得、高等教育進学に大別できる。職業資格は主に継続教育カレッジでその教育訓練が行われる。高等教育に進学するのは、さらにシックスフォームと呼ばれる課程で2年間の高等教育を受け、いわゆる大学入試にあたるGCE-Aレベル (General Certificate of Education, Advanced Level) によりA～Eのグレードで評価され、

米子工業高等専門学校 リベラルアーツセンター 設立式

その評価に見合った大学へ入学する。この2年間で、日本でいう大学入学後の一般教育課程に相当すると考えられ、イギリスでは大学入学前に基礎的な教養課程を習得しているといえるだろう。

この仕組みの違いから、一般的に、日本からのようなイギリスのカリキュラム以外で学習してきた留学生がイギリスに大学進学を望む場合、必ずファンデーションコースを受講し大学の学部専攻課程に進む。カリキュラムの違いから生まれるギャップを埋め、学生の英語力を伸ばし、イギリスの生活や文化に慣れる時間を設けることで、イギリス大学入学に備えるためである。また、イギリスの学校の教育は知識教育ではなく、得た知識でものを考える訓練を重んじ、さまざまな答を導き出し正解に至るプロセスを通して個人の能力を養う教育をおこなうため、試験方法も記述式で授業も発言することが求められる双方向の形式であることも大きな違いであるからである。

大学の学部における専攻の編成も日本とは違い、'A アート' (アンドヒューマニティーズ) と 'S サイエンス' の2学部で大別される。リベラルアーツが 'A' と 'S' の「入り口」と考えられており、これらの科目を履修した後にはメジャー (専攻) を決める仕組みになっている。

イギリスの大学院においては、専攻を横断して学生が学ぶ環境 'T字型' に留まらず、'πパイ型 (ダブルメジャー)' や '△トライアングル (トリプルメジャー) 型' 教育が確立されている。実際、さまざまな学部専攻から大学院に進学し共に学び、いくつもの学位を横断的に取得している学生が少なくない。また、現役や社会人と年齢層も幅広く、フルタイム、パートタイムそしてデスタンスと学び方もさまざまである。

「創造」のためには、異分野との融合による相乗効果や分野横断的な発想が必要不可欠で複数の専門分野に精通し、かつ全体の調整もできることが必要である。多様性が増している社会に対する理解の幅と深さの両面が求められている現代、一般教養教育の基礎により「幅広い知識」を備えた「高い専門性」をもつグローバル人材の育成が実現できる整備が日本の教育環境においても必要ではないだろうか。

【トークセッション】

「高専の目指す教養」

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博



高専教育を取り巻く環境の中で、教養教育の重要性がにわかに取り上げられている。高校や大学等他の学

校に対する、高専の特色をいよいよ外見からは見えにくい内面の部分に求めるようになった。高専の教養科目が、大学の教養科目に比べてより基本的であるために、最低限その立場が保たれていたのは事実であり、これまで批判的な観点で改善を求められることもなかった。高専教養教育は高校の教科や大学の教養科目とは似て非なるもので、課されるものではなく、また決してそれ自身で独立した純粋な教養であってはならない。そのあり方を再確立するこの機会を逃すと、教養教育は最大限果たせる役割と期待を永遠に放棄することになり、これを生かせない高専にとっても計り知れない損失となることを覚悟しなければならない。そして、この改革が外部から課されるものでなく、高専内部から自発的になされるものであることが大きな意味をもつのである。

教科書や学ぶ内容の共通部分が多いとはいえ、事実上大学入試のみを目的とする高校教育と、学びの継続を上位の教育機関に委ねない高専の教養教育のあり方が同じであるのは有効性の観点から問題である。高専教育において、教養科目は課程としての人間教育の最終機会であるため、それを学ぶことが学ぶ者の思考様式、人格、社会や技術への関わり方に確実に影響を及ぼすという確信をもって教える必要がある。高専入試の経験のためか学生は、放置すれば大学入試型の勉強をしてしまう。高専教員は教育者・研究者として自らの「学び方」の経験を生かし、「いかに学ぶか」という自発的発展システムをそれぞれの科目を通じて学生に伝える使命をもつ。一方では、我々が学生の立場で経験した大学教養に課題を見出すならば、それを高専に持ち込んでもいけない。

学ぶ過程を2つに大別すると、「記憶する、真似る」という近距離的な蓄積する進歩の方向と、「類推する、活用する」というやや遠距離的で飛躍する理解の方向があり、いかなる教育もこれら2つの座標軸がなす2次元面内の方向で特徴づけられると考えてみよう。その中で、多くの成功した高専生が共通して示すであろう、創造性を発揮させる方向こそが、2つのバランスのとれた目指すべき方向である。伸びる学生は、教え方によらず、適度なバランスの方向を手探りで進むのであろうが、教える側がその方向に適った教育を実践することにより、多くの学生を伸ばす効率的な望ましいあり方を実現するに相違ない。そして、「学ぶ」方向性に関する共通認識をもつことこそが、高専カリキュラム検討の出発点であると思われる。

新任教員おすすめの本

『一步を越える勇気』栗城 史多 著

サンマーク出版

物質工学科 遠藤 路子

著者は世界七大陸最高峰の単独無酸素登頂に挑戦している登山家です。登山中に行うインターネット生中継を通じ、著者の冒険（登山）を共有することで、夢に向かって一步を踏み出すことができる人を増やすため、登山をされています。今回お勧めしたいと思った内容は、登山活動のノウハウの紹介ではなく、「夢を持ち、行動するまでの一步の勇気を出すこと」についてです。著者の記録より、苦しみから逃げるために幾度と「下山したい」と思いつつも、一步一步勇気を出して前に進み、苦しみに「ありがとう」と感謝しつつ登頂に成功し、多くの人を感動させています。また、エベレストに向かった時、下山の選択をしています。生死に危険を感じたときは「下山する」という判断も次の登山につなげるための勇気の一歩となります。

人によって「夢」は異なります。「夢を叶えるために苦しみを越えなくちゃいけない」というわけではないのですが、越えられないかもしれない夢を持った時に、この本を読むことで、一步の勇気をもたらるのではないかなと思います。

『日本人の知らない日本語』蛇蔵・海野 凧子 著

メディアファクトリー

教養教育科 辻本 桜介

思い切って、漫画形式を基調とする本をご紹介しますことにしました。この本は、外国人に対して日本語を教える立場の人の体験をもとに書かれています。面白いエピソードを集めており、日本人であれば、どなたでも楽しく読むことができます。

そして、ただ楽しいだけでなく、普段は気がつかないような、日本語についての多くの言語学的事実や、諸外国の興味深い事情を知ることでもでき、勉強になります。普段、読書をする習慣の無い人、あるいは言語や諸外国

の事情に興味の無い人でも、ひとたび手に取れば、思わず、「へえ知らなかった」と頷き、あるいは「確かに言われてみれば」と笑いつつ、読み進めてしまうことでしょう。「国際化」という、使い古された用語を出すまでも無く、これからは誰しものが、外国の人々と関わる機会を多く持つはずです。日本の言語・文化について、外国との相違に注意しながら知っておくことは、必ず役に立つと思います。

学生の皆さんは、日頃の専門的な勉強・研究で頭が疲れてしまったときに、是非、手にとってリフレッシュして下さい。そして、できれば言語や社会についての興味も深めてもらえたら、と思っています。

『よろづ春夏秋冬』長野まゆみ 著

文藝春秋

物質工学科 須崎 萌実

私が読む本は短編集が多いです。1人の作家さんの短編、複数人の作家さんの短編、どちらも読みます。短編のいいところは内容が小さくまとまっているところ。そして、いろんなものを楽しめる、想像力が豊かになるところだと思います。1つの話を読み終えたとき、ちょっと物足りないなとなりますが、だからこそたくさん物語を読めるしその先を想像できる、と思います。

紹介する本のタイトルは「よろづあきないちゅう」と読みます。秋がないのであきない、です。表紙はとてもかわいらしいのですが、内容は古典的で妖しい世界観。そして、狐に化かされたかと思うような不思議な物語が14編入っている短編集です。私が初めてこの本を手にとったのは高校生のときです。初めは表紙に惹かれて読みはじめました。短編集でとても読みやすいですが、表紙と中身のギャップが強いなと思いました。そのギャップについては読んでいただければわかるかと思います。長野まゆみさんの本はとても読みやすく、雰囲気がとてもいいと個人的には思います。ちょっと疲れたなと思ったら、難しい本ではなくて、ゆるく不思議な本で現実を少し離れてみるのもいいと私は思います。



新任教員 図書に関する座談会

熊谷昌彦先生

建築学科 特任教授 図書館館長

遠藤路子先生

物質工学科

【今まで印象に残る本とその理由】

熊谷先生: 印象に残る本は具体的に何かありますか?

遠藤先生: タイトルは「一步を越える勇氣」(栗城史多著) 登山家の本で、私と同年の方の執筆なんです。就職して、人生の流れのなかで“このままでいいの?”と思うことがあり、その登山家も元ニートという異質な経歴の持ち主で、興味を持ち手にとってみました。本の中で自分の夢をあきらめないという意味、どんなに苦しくても乗り越えていくぞという思いに共感しました。

辻本先生: え、元ニートって事ですよね?その人、登山ってのは山登るだけですよね。

遠藤先生: 登山するにはすごくお金がかかるため、費用を捻出する為に活動(バイト)をしながら登山をするそうです。その登山家も単独無酸素登頂ってことで登山する費用を集めておられるのです。単独で登っているかもしれないけどたくさんの方から支援を受けている時点で単独ではないのではという意見があります。私は登山方法では無くて、諦めないという思いのところに共感しました。

須崎先生: それは自叙伝的な本ですか?

遠藤先生: 記録本に近いです。

熊谷先生: それでは、須崎先生の印象に残る本とその理由お聞かせください。

須崎先生: 私自身図鑑とか結構好きで、元素がすごく綺麗に掲載されている図鑑があって、それを大学生の時に後輩が持っていたので借りたんですけどすごく綺麗で、しかもいろいろ詳しく書いてあるので、図鑑としてはすごく印象に残っています。

熊谷先生: 図鑑の名前はなんですか?

須崎先生: 「世界で一番美しい元素図鑑」(セオドア・グレイ著)です。

辻本先生: 印象に残る本は専門書の「図解日本語」(沖森卓也等著)という本がありまして、この本で

日本語に関する様々な事実について授業で紹介されて、面白いと感じました。図もたくさんあり、その本は初めて自ら全て読みました。

【若者の本離れについて】

熊谷先生: 若者が本離れしているのは何故だろうか。皆さんも若いので本離れしていると思いますが(笑)、自問自答していただいて(笑)。

新同一同: インターネットの普及でしょうね(苦笑)。

辻本先生: 本以外にも文字に触れる機会が非常に多くなっているんで、インターネットに触れる分、本を読む時間が減るというのはあると思います。

遠藤先生: インターネットのせいというか、情報が映像で分かっちゃうので、そこで満足しがちです。本来はそこで一步進んで本とかを見るべきなんだろうけどそこを進めなくてその情報だけで十分になってしまうのではないかと思います。

辻本先生: 分からない場面にあったらそこで本などを調べます。しかし、とっかかりはやっぱりインターネットですかね。逆にお伺いしたいんですけど現在は本当に本離れしているのでしょうか?

熊谷先生: 一つは全体的に書店の数が減っている。二つ目に学習時間の中で本を全く読まない学生が結構います。文部科学省の統計にありますよ。

辻本先生: 情報媒体もたくさんあるので若者の本離れという現状もありますし、それを受けて教育も変化する面もあるかもしれませんからもう少し様子をみてもいいかなと思いますね(笑)。





辻本桜介先生
教養教育科



須崎萌実先生
物質工学科

熊谷先生: 学生は最初インターネットで調べるのは得意です。さらに深めて文献を調べるようになっていいですね。

【学生へのメッセージ】

辻本先生: お話を聞いた限り一番本を読まないのは私なんです。かなり極端な立場から言わせていただくと、読まないなら読まないなりに持論を持つことが大切だと思います。

遠藤先生: 社会に出てからわかるんですけど、会話の中で「あの本読んだ!」とか出てくるんですね。その中でみんな知ってて自分だけ知らないと疎遠になってしまったり、寂しいと感じてしまう事もあります。有名な本の著者は特に時代の背景を知るうえで必要なもので、本は近くにあった方がいいな、と思います。

須崎先生: 私も本を読む方ではないんですけど本を読むと、知識も増えるし、漢字も読めるようになるし、歴史も感じられたりするし、そういうところも面白いと思うんですよ。私は基本的に長編じゃなくて短編を読むので、ゆるく短い、物足りないくらいの本を読むと疲れた時にはちょうどいいか

なっていると思います。

熊谷先生: 楽しい座談会ありがとうございました。



(平成28年4月22日 於 図書館創造ゼミナール室
記録・写真 建築学科5年 楠本 涼華、廣江 真紀、森脇 美那)

校内読書感想文コンクール募集実施要項

- 応募資格: 米子高専の学生 対象図書: 自由
 字数: B4縦書き原稿用紙(400字詰)5枚以内。
 応募作品: 自筆。個人のオリジナルで未発表の作品に限る。
 入賞作品(最優秀賞、優秀賞及び佳作)の著作権は米子工業高等専門学校に帰属する。
 提出締切: 10月7日(金)
 提出先: 各クラス図書委員が集めて担任へ(専攻科生は直接図書館まで)
 審査委員: 各クラス担任、図書館長、図書館運営委員、国語科教員
 審査: 第1次~10月14日(金)までクラス担任が5編以内を選定
 第2次~11月1日(火)まで図書館長、図書館運営委員、国語教員の審査
 第3次~11月7日(月)図書館運営委員会において各賞を決定
 表彰: 最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作5編
 賞状および副賞として図書カード~最優秀賞15,000円相当、優秀賞10,000円相当、
 佳作5,000円相当
 表彰式: 11月中 作品展示: 入賞作品は『としょぶらり』(印刷版及びWeb版)に掲載する。

2015年度 学生表彰文化系クラブ等活動の紹介

放送部

顧問 物質工学科 田中 晋

放送部は、春に多数の新入部員を迎え、部員数が男子25名、女子22名となりました。白砂会館2階3・4研修室にて、毎日、ガヤガヤ、わちゃわちゃと賑やかに活動しています。

主な活動は、ラジオ番組や映像作品の制作です。一番、力を入れているのは、毎月第1日曜日22:00からDARAZ FMで放送しているラジオ番組「米子高専エンジン×ピープル」の制作です。米子高専の話題を取り上げ、インタビュー取材した内容を放送していますので、身近な学生、教職員の皆さんの声を聴いていただけます。DARAZ FMは鳥取県西部地区に向けて発信されていますが、同じ時間にインターネットを通じた放送も行っていますので、PCやスマホなどで手軽に聞いていただけます。是非ともお聞きください(図1)。



<http://www.darazfm.com/>

図1「米子高専エンジン×ピープル」の番組ロゴ

また、各種大会にも積極的に参加しています。特に、毎年、1,600校以上の高校が参加するNHK杯全国高校放送コンテストには、9年連続全国大会進出、7年連続(通算8年)全国入賞を果たしています。平成24年度には、創作ラジオドラマ部門で準優勝しました。今年の全国大会では、ラジオドキュメント部門で制作奨励を受賞しました。(図2)



図2 全国大会

3年前からは、夏休みを利用して、映画作りにも挑戦しています。(図3) これらの作品はシナリオ作りも学生の手で行うため、頭脳労働を強いられますが、部員たちは、苦しみながらも、喜々として取り組んでいます。この大会でも3年連続で上位入賞を果たしており、昨年、制作した28分間の短編映画「星空が落ちる前に」も、高校生のためのeiga worldcupにて優秀作品賞(2位)、最優秀撮影賞などをはじめ、参加校中最多となる8個の賞を受賞しました。また、高校生フィルムコンテストin調布

では最優勝賞を受賞しています。

今年の9月にも映画制作を行う予定です。手伝ってみたいという方は是非とも放送部員まで声をかけてください。入部しないが映画づくりだけちょっと手伝いたいといった方も大歓迎です。



図3 テレビドラマ撮影風景

高校生年代以外の大会でも実績を上げ、高学年の活動も活発化しています。一昨年は、NHK全国大学放送コンテストに初挑戦し、2部門で準優勝をしました。岡山や山形、香川、米子などで行われた社会人対象のコンテストでも上位入賞を果たしており、いろいろなところで米子高専の名前を憶えていただけるようになりつつあります。

昨年度は、プロの撮影監督田中一成さんらを招いた映画制作講座を行ったり、米子駅前のガイナックスシアターを貸し切って「はじめての校外上映会」を行ったりしました(図4)。これらは、鳥取県教育委員会「とっとり夢プロジェクト」の支援を受けて行った初めての試みでしたが、多くの参加者を得て無事成功させることができました。中海テレビ放送でも不定期ですがテレビ番組「米子高専Cross Over A」を制作し、作品を放送しております。

以上のような番組制作にあたって、放送部では、各所に出向き、取材活動を行っています。取材等で協力をお願いすることもあるかと思いますが、その際はよろしくお願いたします!



図4 米子高専放送部はじめての校外上映会での集合写真

B&C研究同好会 顧問 物質工学科 谷藤 尚貴

本同好会は、低学年次（主に2～4年生）の学生による高度な自主研究（自分で考え推進する研究）を取り扱っている組織です。活動内容は食品廃棄物の有効活用法の提案を主眼においた化学・生物系の応用研究と、それらの成果を外部発表するためのプレゼン練習が中心となっています。活動内容は以前からの興味本位の基礎科学研究も行っていましたが、最近は文科省の研究予算配分による研究や、企業からの依頼による本格的な共同研究の比率が上がっており、同好会というよりは、授業や卒業研究の枠を越えた実用研究を推進するグループに近い、と表現できるのかもしれませんが。

2015年度は同好会開設10年目で、研究メンバーの経験値や成果の熟成度も高まったことに従い、全国レベルの大会で過去最高の活動成績を残すことができました。その中の主要な業績（全国レベルのコンテスト入賞のみ）を示します。

- ・第5回バイオサミットin鶴岡、
環境大臣賞（8月、3C前田）
- ・第22回コカ・コーラ環境フォーラム、
最優秀賞（8月、5E小西、5C田中、4E森田）
- ・工学フォーラム2015、
文部科学大臣賞（11月、3C前田、2C山村）
- ・テクノ愛2015、
大学部門グランプリ（11月、5C田中、5E小西、4C田原）
- ・地球温暖化防止活動
環境大臣表彰（12月、団体表彰）
- ・高校生科学技術チャレンジ（JSEC）2015、
科学技術政策担当大臣賞（12月、3C前田、2C山村）
- ・低炭素杯2016、環境大臣賞（2月、5C田中、5E小西）
- ・第5回サイエンス・インカレ、
奨励表彰（3月、5C田中、4E森田※文科省表彰）
- ・国立高等専門学校機構理事長表彰（3月）

この中で特筆すべき点は、世界科学オリンピックの国内予選でもある高校生科学技術チャレンジでの二年連続の上位入賞と、それに伴うインテル国際科学技術フェアの日本代表に選出されたことです。読売新聞主催の学生科学賞、朝日新聞主催の高校生科学技術チャレンジの二大会は国内最高峰の科学コンテストであり、高校生年代のトップ研究同士の真剣勝負が繰り返されます。その中での上位入賞を継続することによって、現在は国内上位の研究グループとして外部からは認識されています。科学技術に関する発見・進化は場所や環境に関係無く生み出すことが可能です。今後も米子から世界を驚かせる成果を本同好会から生み出し、発信していきたいと考えています。

話は変わり、昨今の科学研究の現場では指導学生に背中を見せて伝える姿勢も必要かと考え、谷藤も昨年度は競争的な行事に参加して、文部科学大臣表彰（4月）、小柴昌俊科学教育賞（3月）、工学教育賞（3月）を受賞する等、校外活動での勝負強さの見本を示してみました。学生時代の成功体験には、何の取組でも必ず周りの人のサポートがあります。しかし、それは大人になると無くなり、1人で頑張らねばならない時期が必ずやってきます。その時のための自己形成を早めるためにも、本校学生には外に出て、何でも良いので自分の取り組みをアピールし、他者から評価を受ける活動に励んでほしいと、私は願っています。



図書館からのお知らせ

夏季休業特別貸出について

下記期間中は長期で本を借りることができます。
課題・資格試験等にご利用ください。

貸出期間／ 7月27日(水)～9月20日(火)

返却期限／10月 5日(水)

貸出冊数／5冊まで



文化系クラブ活動・同好会の紹介

吹奏楽部

吹奏楽部の活動の内、大きなものとして吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストへの参加、定期演奏会（今回は第27回）の開催があり、その他には高専祭での演奏、地域の催しへの参加、松江高専吹奏楽部との交流演奏、入学式、卒業式での式典演奏があります。高専入学後に新たに楽器を始めた部員も多いのですが、みんな楽器の吹き方、楽譜の読み方を一から学び、ステージで演奏できるまでに成長しています。毎年10数曲の新作（吹奏楽のためのオリジナル曲、最新のはやり曲、昔懐かしい曲などさまざまです）に挑戦をしています。



コンピュータ同好会

コンピュータ同好会では、ソフトウェア、プログラミング、ネットワーク、セキュリティ等のコンピュータに関連する技術の学習を目的として活動しています。特にプログラミングを中心に、競技プログラミング（問題をプログラムで解く競技）、ゲームやアプリケーション開発を多くの部員が進めています。また、基礎力向上のために毎週競技プログラミングの問題の解法について考え、プログラムを作成しています。高専プロコンだけでなく、パソコン甲子園、情報オリンピック、ACM / ICPC等の各種コンテストに参加を目指し、日夜各自の技術力を磨いています。



中国地区高専コンピュータフェスティバルにて(競技部門2位入賞)

文芸部

文芸部では詩、小説などの分野を中心に執筆活動をしています。年1冊の文芸誌の発行を目指し活動をしています。

昨秋、中国地区高等専門学校文芸部合同合宿を米子高専の主催で実施しました。この合宿には米子高専をはじめ、松江高専と徳山高専の学生が参加しました。合宿恒例の文芸コンクールは、各校が作品を事前に持ち寄り、詩、小説・エッセイ、文芸誌の3つの部門別に互いに採点を行って、合宿で賞の発表を行いました。その他に、各校の活動状況報告やピブリオトークで熱弁を振るい、互いの交流を深めました。



中国地区高専文芸部合同合宿

将棋同好会

将棋同好会は、全国高専将棋大会で活躍することを目的として将棋の練習を行っている同好会です。全国高専将棋大会は各県の高校竜王経験者などが多数参加するレベルの高い大会です。しかし、私たちは平成25年度にこの大会で団体戦3位という成績を残しています。本同好会での練習は対局を主としており、将棋の序盤において重要である定跡について書かれた本や、中盤において重要な手筋の本、終盤において重要な詰将棋の本なども同好会内で貸し出しを行っています。このような家でも練習できるような体制を整えることで、強豪高専にも勝てるような棋力を育てています。



図書館交流プラザを利用した建築授業

建築学科 高増 佳子

建築学科では、1年生から5年生まで建築設計製図の授業で、課題に応じた建築の設計に取り組み、図面や模型で表現し、発表会でプレゼンテーションしています。3年生では「想いを伝える幼稚園」や「集まって住むを根本から考える集合住宅」や「米子の文化パブリックスペース」という課題に取り組んでいます。

これまで建築学科内のプレゼンテーションスタジオで発表会を各学年で行ってきましたが、学内全体に開かれた交流プラザでの発表会や展示を行うことで、より多くの方々の目にふれる機会を設けました。マグネットで掲示できる縦型可動ホワイトボードが作品掲示もしやすく、発表や展示に適しています。研究のポスター発表などにも適していると思われます。

壁で囲われた教室ではなく、オープンな交流プラザでは集中力が拡散しがちにも思われますが、学生たちの熱のこもった発表と集中力は通りすがりやガラス越しにも見れることで、学内の活気にもつながるのではないかと考えます。交流プラザが人と人にとどまらず、作品と人、そこから生まれる思考や知など多様なモノゴトの交流の場になることを望んでいます。



弓ヶ浜セミナー

弓ヶ浜セミナー司会 堀畑 佳宏

弓ヶ浜セミナーとは、本校教員の研究の交流を目的に、教職員を対象とした研究紹介の場である。2013年11月から始められ、現在までに合計8回開催された。昨年度の発表は以下の2件であった。

- ・平成27年11月25日『私達の周りの水環境』
伊達 勇介 先生 (物質工学科)
- ・平成28年3月24日『門脇重綾と和歌』
渡邊 健 先生 (教養教育科・国語)

大学では、キャンパスが複数存在したり、また同じキャンパスでも建物がいくつかに分かれているため、教員同士が離れて仕事をしている場合が多い。一方本校では、専門5学科ならびに教養教育科の教員達が1つの校舎で仕事をしている。そこで、多様な研究者が1か所に集まっている利点を積極的に生かすために、お互いの研究分野をより深く知ろう、ということが本セミナーを始めたきっかけである。

実際に本セミナーを始めるにあたって強く後押しをしたのは、2011年度から始まった合同教員室制度、つまり、新任教員は最初の2年間を自分の研究室ではな

く、合同教員室と呼ばれる大部屋で仕事をする制度、であった。合同教員室では、色々な分野の若い教員が集まるため、お互いの研究についての議論が活発に、かつざっくばらんになされる。またそれぞれアイデアを出し合い、本セミナーのような企画立案も行っている。合同教員室を出た後もそのコミュニティーを維持し、セミナーの内容や日程を相談して決め、現在に至っている。

セミナーには、発表者の専門と異なる専門分野の教員たち、さらには事務員や技術職員の方々も熱心に参



図書館を利用した授業・学会発表と研究交流

加してくださっている。このことから発表者には、多くの方々に理解してもらえるような発表内容・資料を準備して頂いている。また発表内容について論文にまとめたものを、米子高専研究報告に投稿している。

セミナーでは毎回アンケートを実施しているが、多くの聴講者の方に発表内容を楽しんで頂けている模様

である。また他分野の研究結果や手法、動機などに刺激を受けられている方も見受けられる。

今後も本セミナーを継続し、本校の研究がより活発になり、さらには共同研究等に繋がっていけば幸いである。

弓ヶ浜という名の弓で、新たな研究の地平を射貫こう！

日本民俗建築学会 第43回大会 開催

建築学科助教 金澤 雄記

2016年5月28日(土)に図書館2階アカデミックシアターで「日本民俗建築学会 第43回大会」を開催いたしました。「日本民俗建築学会」とは主に民家や町並み、民俗文化生活芸能の研究者で構成される会員600名ほどの学会です。毎年5月に学会大会を開催しておりますが、今年は私が実行委員長となり、米子高専にて学会大会を開催しました。いわゆる文化財の民家や、伝建指定の町並みの調査研究に携わる第一線の研究者が、文字通り全国北は北海道、南は鹿児島から73名参加しました。前日、羽田空港の大韓航空旅客機火災の影響で米子便が欠航となりトラブルに見舞われましたが、無事予定していた全員が来米することができました。民俗建築学会では学会大会を便利な公共施設ではなく、研究教育機関で行うことを1つの方針としています。米子高専は駅や空港からの公共交通の便が悪い立地であることが一番の懸念材料でしたが、普段山奥や僻地の民家や町並み・集落を好んで調査研究するツワモノですから全く苦にはならなかったようです。

当日は、午前は理事会と総会、午後から基調講演会と研究発表会を行いました。基調講演は、山陰の民家や町並みの調査研究に長年携わっておられる本校の和田嘉有名誉教授にお願いし、「所子の町並み—鳥取県大山町所子重要伝統的建造物群保存地区—とその周辺」というテーマでご講演いただきました。山陰の民家は屋根材料や部屋の間取りに他地域とは異なる特徴があります。具体的な調査成果に他地域からの参加者は熱心に耳を傾けていました。その後大会参加者による18題の研究発表がありました。

翌2日目は「山陰の原風景の町並み見学会」ということで、米子の旧城下町と重伝建の大山町所子、さらには境港の町並みを見学しました。普段非公開の後藤家・門脇家・植田家など山陰を代表する民家の見学も行いました。

米子高専での学会大会の開催の計画は、ちょうど図書館の改修が終わった2年前に持ち上がりました。立派な会場が完成したということで、私も胸を張って米子高専での開催を引き受けました。実際、参加者からは「最近できた図書館ですか?」という声が多く寄せられました。あいにく開催日当日は山陰らしい曇天で、図書館2階の窓から大山が望めなかったことが悔やまれますが、ガラス張りで明るいロビーや、内装が一掃された室内など、学会を執り行う上で十分過ぎる会場でした。いろいろご無理を申しご迷惑おかけいたしました。施設関係者の方々にはお礼申し上げます。ありがとうございました。



図書館統計

1.平成27年度 学生利用冊数ベスト10

順位	貸出回数	書名	著者
1位	39	Study guide and solutions manual for McMurry and Simanek's fundamentals of organic chemistry / 6th ed.	Susan McMurry.
2位	27	有機化学実験	フィーザー, ウィリアムソン [著]; 磯部 稔 [ほか] 共訳
3位	24	火花	又吉 直樹 著
4位	20	TOEICテスト新公式問題集 vol. 2	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会
5位	17	大学編入試験問題数学/徹底演習:微分積分・線形代数・応用数学	林 義実, 山田 敏清 共著
5位	17	オペアンプの基礎マスター	堀 桂太郎 著
5位	17	新TOEIC TEST出る順で学ぶボキャブラリー	神崎 正哉 著
8位	15	電子回路	押山 保常 [ほか] 共著
9位	14	機器分析のてびき1	岡原 光男 [ほか] 共著
9位	14	TOEICテスト新公式問題集 vol. 6	国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会
9位	14	PICアセンブラ入門	浅川 毅 著

2.平成27年度 利用状況

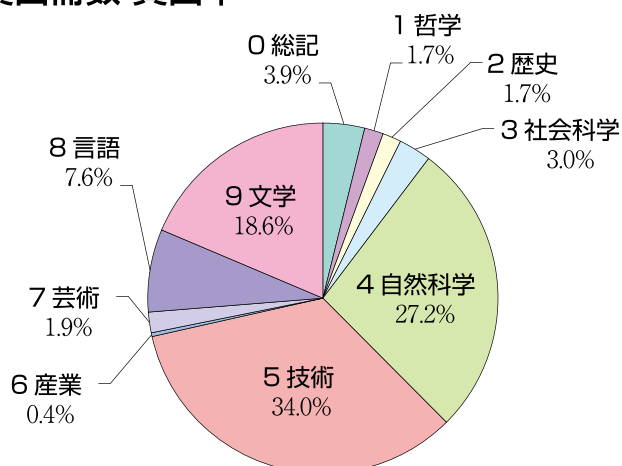
開館日数:286日

区分	学生	教職員	校外者	合計
学生・教職員数	1,065人	119人	18人	1,202人
入館者数	52,955人		959人	53,914人
図書貸出者数	4,175人	623人	149人	4,947人
図書貸出冊数	8,244冊	1,529冊	318冊	10,091冊

3.平成27年4月～28年3月 NDC分類別貸出冊数・貸出率

分類	貸出冊数
0 総記	388
1 哲学	176
2 歴史	174
3 社会科学	303
4 自然科学	2,747
5 技術	3,425
6 産業	35
7 芸術	192
8 言語	771
9 文学	1,880
合計	10,091

順位	分類	貸出率(%)
1位	5 技術	34.0%
2位	4 自然科学	27.2%
3位	9 文学	18.6%
4位	8 言語	7.6%
5位	0 総記	3.9%
6位	3 社会科学	3.0%
7位	7 芸術	1.9%
8位	1 哲学	1.7%
9位	2 歴史	1.7%
10位	6 産業	0.4%
合計		100.0%



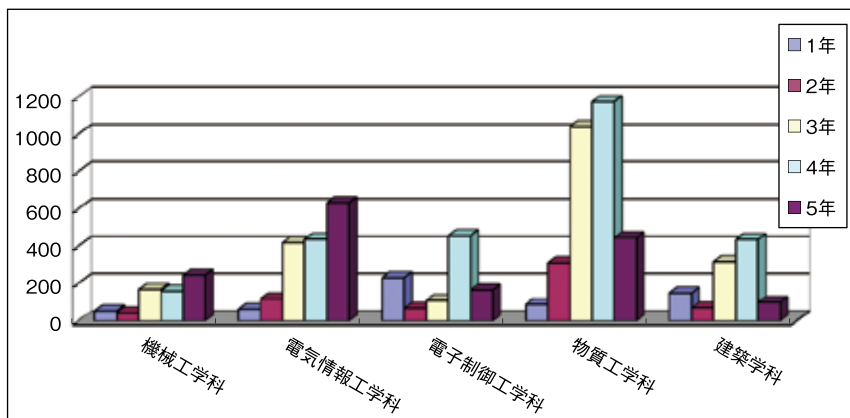
図書館統計

4.平成27年度 学年・学科別貸出冊数

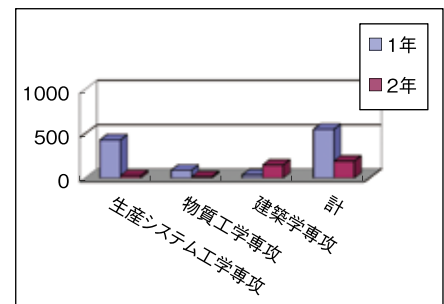
本科・専攻科

学科等 学年	本 科						専攻科				合 計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	計	生産システム工学専攻	物質工学専攻	建築学専攻	計	
1年	54	63	231	88	149	585	429	88	36	553	
2年	43	117	68	311	70	609	28	16	147	191	
3年	168	419	109	1,041	317	2,054					
4年	159	438	457	1,175	436	2,665					
5年	244	633	165	446	99	1,587					
合計	668	1,670	1,030	3,061	1,071	7,500	457	104	183	744	8,244

平成27年度 本科 学年・学科別貸出冊数



平成27年度 専攻科 学年・学科別貸出冊数



学生図書委員一覧

平成28年度 学生図書委員一覧

【委員長】岡田 仁子(前期)／山下 海誓(後期) 【副委員長】平井 悠翔、種 香夏(前期・後期)

学年	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	栗谷 壮良	石田 晟介	陶山 一字	平井 壘	山田 ゆかり
2	加藤 陸生	種 香夏	岩田 将貴	松田 稜哉	深田 唯花
3	山下 海誓	小野 友輔	山田 理希	中村 彰吾	岡田 仁子
4	恩田 晃匠	平井 悠翔	舩津 恭平	森田 匠施	中原 優
5	妹尾 真希	足立 奈々美	山根 匡翔	田中 佑季	足立 香織

平成27年度 リベラルアーツコーナー図書一覧

(米子高専後援会寄贈)

No	書名	著者名
1	池上彰のニュースの学校：情報を200%活かす	池上 彰
2	社会人のリベラルアーツ：本物の知性を磨く	麻生川 静男
3	池上彰の教養のススメ = The value of a liberal arts education by Akira Ikegami	池上 彰
4	こども「学問のすすめ」	斉藤 孝
5	おとなの教養：私たちはどこから来て、どこへ行くのか?	池上 彰
6	大人になるためのリベラルアーツ：思考演習12題	石井 洋二郎
7	リベラルアーツの学び方	瀬木 比呂志
8	ブルックスの知能ロボット論：なぜMITのロボットは前進し続けるのか?	Brooks Rodney Allen
9	人工知能は人間を超えるか：ディープラーニングの先にあるもの	松尾 豊
10	ビッグデータの罠	岡嶋 裕史
11	ハッカーと画家：コンピュータ時代の創造者たち	Graham Paul
12	10才からはじめるプログラミング図鑑：たのしみなふすクラッチ&Python超入門	Vorderman Carol
13	コンピュータはなぜ動くのか：知っておきたいハードウェア&ソフトウェアの基礎知識	矢沢 久雄
14	思考する機械コンピュータ	Hillis W. Daniel
15	レバレッジリーディング：100倍の利益を稼ぎ出すビジネス書「多読」のすすめ	本田 直之
16	ほかの誰も薦めなかったとしても今のうちに読んでおくべきだと思う本を紹介します。	雨宮 処凛
17	勝てる読書	豊崎 由美
18	「反知性主義」に陥らないための必読書70冊	文芸春秋
19	The books green：365人の本屋さんが中高生に心から推す「この一冊」	ミンマ社
20	本を読んだ人だけがどんな時代でも生き抜くことができる	千田 琢哉
21	本を味方につける本：自分が変わる読書術	永江 朗
22	違法ダウンロードで逮捕されないための改正著作権法	鳥飼総合法律事務所
23	18歳の著作権入門	福井 健策
24	なぜ本屋に行くときアイデアが生まれるのか	嶋 浩一郎
25	教養は「事典」で磨く：ネットでできない「知の技法」	成毛 真
26	路上観察学入門	赤瀬川 原平
27	道をひらく：日々の言葉	松下 幸之助
28	池上彰に聞くどうなっているの?ニッポンの新聞	池上 彰
29	不肖・宮嶋メディアのウソ、教えた!	宮嶋 茂樹
30	発信力の育てかた：ジャーナリストが教える「伝える」レッスン	外岡 秀俊
31	世界のエリートが学んでいる教養としての哲学	小川 仁志
32	集中講義これが哲学!：いまを生き抜く思考のレッスン	西 研
33	からだと心の対話術	近藤 良平
34	特別授業“死”について話そう	伊沢 正名
35	風土：人間学的考察	和辻 哲郎
36	マンガでわかる老子《入門》	周 春才
37	高校生のための哲学・思想入門：哲学の名著セレクション	竹田 青嗣
38	ヘーゲル「精神現象学」	竹田 青嗣
39	ハイデガー哲学入門：『存在と時間』を読む	仲正 昌樹
40	知識ゼロからのニーチェ入門	竹田 青嗣
41	ニーチェ：ツァラトゥストラの謎	村井 則夫
42	ツァラトゥストラかく語りき	Nietzsche Friedrich Wilhelm
43	言葉と物：人文科学の考古学	Foucault Michel
44	他人を支配する黒すぎる心理術	マルコ社
45	ハーバード、オックスフォード…世界のトップスクールが実践する考える力の磨き方	福原 正大
46	アイデアはどこからやってくる?	岩井 俊雄
47	ユーザーイリュージョン：意識という幻想	トールノーレットランダーシュ
48	スタンフォードの自分を変える教室	McGonigal Kelly
49	図解でわかるスタンフォードの自分を変える教室	McGonigal Kelly
50	嫌われる勇氣	岸見 一郎
51	こうして、思考は現実になる 1	Grout Pam
52	こうして、思考は現実になる 2	Grout Pam
53	「古い脳」でかしく生きる	鏡 リュウジ
54	アダム・スミス人間の本質：『道徳感情論』に学ぶよりよい生き方	小川 仁志
55	エコエティカ：生圏倫理学入門	今道 友信
56	偽善のすすめ：10代からの倫理学講座	Mazzarino Paolo
57	「幸せ」について考えよう	島田 雅彦
58	愛するということ	Fromm Erich
59	葉隠入門	三島 由紀夫

No	書名	著者名
60	友達がいけないということ	小谷野 敦
61	ハーバードの自分を知る技術：悩めるエリートたちの人生戦略ロードマップ	Kaplan Robert S.
62	ハーバードの「正しい疑問」を持つ技術：成果を上げるリーダーの習慣	Kaplan Robert S.
63	「天職」がわかる心理学：いまの仕事で心が満たされていますか?	中越 裕史
64	TOEICじゃない必要なのは経済常識センスを身につけることだ：若いビジネスマン諸君	上念 司
65	デザイン・ビジネス愛を呼ぶ言葉：本当に大切なものが分かるヒレテイ「幸福論」：LOVE	Hilty Karl
66	大丈夫キミならできる：松岡修造の熱血応援メッセージ	松岡 修造
67	どうして君は友だちがいけないのか	橋下 徹
68	「がんばらない」人生相談：南無そのまんま・そのまんま	ひろ さちや
69	自分はバカかもしれないと思ったときに読む本	竹内 薫
70	じぶんリセット：つまらない大人にならないために	小山 薫堂
71	人生他力本願：誰かに頼りながら生きる49の方法	上島 竜兵
72	女子の国はいつも内戦	辛酸 なめ子
73	あつ!命の授業	ゴルフ松本
74	人を動かす：全訳版	Carnegie Dale
75	ハーバードの人生を変える授業	Ben-Shahar Tal
76	働く君に伝えたい「お金」の教養：人生を変える5つの特別講義	出口 治明
77	「ほしい未来」は自分の手で作る	鈴木 菜央
78	生き方：人間として一番大切なこと	稲盛 和夫
79	自助論	Smiles Samuel
80	人生を面白くする本物の教養	出口 治明
81	10代にしておきたい17のこと	本田 健
82	20代にしておきたい17のこと	本田 健
83	空想教室：好奇心を“天職”に変える	植松 努
84	まんがでわかる7つの習慣	小山 鹿梨子
85	まんがでわかるD-カーネギーの「人を動かす」「道は開ける」 1	nev
86	まんがでわかるD-カーネギーの「人を動かす」「道は開ける」 2	nev
87	まんがでわかるD-カーネギーの「人を動かす」「道は開ける」 3	nev
88	「めんどくさい」がなくなる本：読んだらスッキリになる	鶴田 豊和
89	「めんどくさい」をやめました。	やました ひでこ
90	道は開ける：あらゆる悩みから自由になる方法	Carnegie Dale
91	完訳7つの習慣：人格主義の回復	Covey Stephen R.
92	置かれた場所で咲きなさい	渡辺 和子
93	潜在意識をことごとく使いこなす	Jensen C. James
94	それでも人生にYESを	富樫 康明
95	すべての「学び」の前に鍛えるべきは、「教わる力」である。	牧田 幸裕
96	ウォートン・スクールの本物の成功の授業	Shell G. Richard
97	神さまってなに?	森 達也
98	なぜ人は宗教にハマるのか	島田 裕巳 著
99	図説ゼロからわかる三大宗教の読み方：キリスト教・イスラム教・仏教	世界情勢を読む会
100	神社の解剖図鑑	米澤 貴紀
101	にっぽん神社とお寺の旅：一生に一度はお参りしておきたい!	K&Bバブリッシャーズ
102	十牛図	上田 閑照
103	無門関ブロムナード	西村 恵信
104	美術で読み解く聖母・マリアとキリスト教伝説	秦 剛平
105	美術で読み解く旧約聖書の真実	秦 剛平
106	美術で読み解く新約聖書の真実	秦 剛平
107	はじめての聖書	橋爪 大三郎
108	美術で読み解く聖人伝説	秦 剛平
109	1492西欧文明の世界支配	Attali Jacques
110	とめられなかった戦争	加藤 陽子
111	挫折した政党政治	御厨 貴
112	「官僚国家」への道：明治	佐々木 克
113	危機が生んだ挙国一致	三谷 博
114	古事記	倉野 憲司
115	江戸の平和力：戦争をしなかった江戸の250年	高橋 敏
116	徳川社会論の視座	水本 邦彦
117	戦後日本史の考え方・学び方：歴史って何だろう?	成田 龍一
118	昭和史 1926~1945	半藤 一利

平成27年度 リベラルアーツコーナー図書一覧

(米子高専後援会寄贈)

No.	書名	著者名
119	昭和史 戦後篇 1945～1989	半藤 一利
120	日本史の謎は「地形」で解ける	竹村 公太郎
121	日本史の謎は「地形」で解ける 文明・文化篇	竹村 公太郎
122	日本史の謎は「地形」で解ける 環境・民族編	竹村 公太郎
123	歴史と哲学の対話	西 研
124	オリエンタリズム	Said Edward W.
125	考え方ひとつで人生は変わる：思いは実現する	稲盛 和夫
126	ニュートリノと私：not a miracle at all	小柴 昌俊
127	運は創るもの	似鳥 昭雄
128	アインシュタインとコーヒータイム	Calle Carlos I.
129	今がわかる時代がわかる世界地図	成美堂出版
130	僕らはまだ、世界を1ミリも知らない	太田 英基
131	鳥取「地理・地名・地図」の謎：意外と知らない鳥取県の歴史を読み解く	造事務所
132	ももあなご「世界一忙しい国」で幸せに暮らす計画を立ててみる：人生の10倍量になる国際自由人の生き方	藤村 正憲
133	場の思想	清水 博
134	ぼくらの真実：Boys and girls meet the country	青山 繁晴
135	ぼくらの民主主義なんだぜ	高橋 源一郎
136	だから日本はしている	古市 憲寿
137	池上彰の世界の見方：15歳に語る現代世界の最前線	池上 彰
138	池上彰の18歳からの教養講座：現代世界を知るために	池上 彰
139	経済用語悪魔の辞典：ニュースに惑わされる前に論破しておきたい55の言葉	上念 司
140	国家の品格	藤原 正彦
141	歴史の終わり 上	Fukuyama Francis
142	歴史の終わり 下	Fukuyama Francis
143	仕事に効く教養は中学3年間の社会科で学べる	井上 烈巳
144	民主主義ってなんだ？	高橋 源一郎
145	選挙ってなんだろ？：18歳からの政治学入門	高村 正彦
146	小学校社会科の教科書で政治の基礎知識を身に付ける：これだけは知っておきたい10のポイント	佐藤 優
147	これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学	Sandel Michael J.
148	定本想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行	Anderson Benedict R. O'G.
149	暴力はいけないうことだと誰もがいうけれど	菅野 稔人
150	池上彰の政治の学校	池上 彰
151	アメリカにおけるデモクラシーについて	トクヴィル
152	世界史で学べ！地政学	茂木 誠
153	あした選挙へ行くまえに	池上 彰
154	18歳選挙権に対応した先生と生徒のための公職選挙法の手引	18歳選挙権研究会
155	民族の壁どついたり！：在日コリアンとのつき合い方	井筒 和幸
156	いちばんわかりやすいマイナンバー：知らないとうなる!?	梅屋 真一郎
157	どなるどするマイナンバーはじけず：マイナンバーの理解と業務/バウへの対応	富士通エフ・オー・エム
158	個人と会社 マイナンバー制度がわかる本	大槻 哲也
159	図解とQ&Aですっきりわかるマイナンバーのしくみ	松本 祐徳
160	ふるさとを元気にする仕事	山崎 亮
161	あなたのまちの政治は案外、あなたの力でも変えられる	五十嵐 立青
162	嘘だらけの日露近現代史	倉山 満
163	嘘だらけの日中近現代史	倉山 満
164	嘘だらけの日米近現代史	倉山 満
165	スマート・パワー：21世紀を支配する新しい力	Nye Joseph S. Jr.
166	ソフト・パワー：21世紀国際政治を制する見えざる力	Nye Joseph S. Jr.
167	14歳からの戦争のリアル	雨宮 処凛
168	さよなら紛争：武装解除人が見た世界の現実	伊勢崎 賢治
169	世界を平和にするためのささやかな提案	池澤 春菜
170	世界から戦争がなくなる本当の理由：戦後70年の教訓	池上 彰
171	文明の衝突	Huntington Samuel P.
172	文明の衝突と21世紀の日本	Huntington Samuel P.
173	憲法主義：条文には書かれていない本質	内山 奈月
174	日本人のための憲法原論	小室 直樹
175	ぼくらの裁判をはじめよう	郷田 マモラ
176	スモールイズビューティフル再論	Schumacher E. F.
177	スモール・イズ・ビューティフル：人間中心の経済学	Schumacher E. F.

No.	書名	著者名
178	学校では教えてくれないお金の話	金子 哲雄
179	池上彰のお金の学校：知らないと損する	池上 彰
180	経済は、人類を幸せにできるのか?：「ホモ・エコノミクス」と21世紀世界	Cohen Daniel
181	高校生からのゲーム理論	松井 彰彦
182	いまこそハイエクに学べ：「戦略」としての思想史	仲正 昌樹 著
183	学び直しケインズ経済学：現在の世界経済問題を考える	Temin Peter
184	なぜ今、シュンペーターなのか	秋元 征紘
185	21世紀の資本	Piketty Thomas
186	ピケティ入門：『21世紀の資本』の読み方	竹信 三恵子
187	アメリカの高校生が学ぶ経済学：原理から実践へ	Clayton Gary E.
188	経済学は人びとを幸福にできるか	宇沢 弘文
189	経済と人間の旅	宇沢 弘文
190	ケインズの逆襲、ハイエクの慧眼：巨人たちは経済政策の混迷を解く鍵をすでに知っていた	松尾 匡
191	宇沢弘文のメッセージ	大塚 信一
192	日本の産業革命：日清・日露戦争から考える	石井 寛治
193	資本主義の終焉と歴史の危機	水野 和夫
194	地方消滅：創生戦略篇	増田 寛也
195	東京消滅：介護破綻と地方移住	増田 寛也
196	国際自由人：人生の主役立ち戻るための新しい生き方：Money&free	藤村 正憲
197	ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学	入山 章栄
198	本田宗一郎夢語録	元永 知宏
199	世界で通用する日本人であるために：これからのビジネスリーダーに贈る45の視点	安田 信
200	やりたいことをやれ	本田 宗一郎
201	アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書	山岡 道男
202	アイデアを「カタチ」にする技術：思いが伝わる心を動かす!	長澤 宏樹
203	京セラフィロソフィ	稲盛 和夫
204	日本人が海外で最高の仕事をする方法：スキルよりも大切なもの	糸木 公廣
205	日本人が「世界で戦う」ために必要な話し方	北山 公一
206	アメリカの高校生が読んでいる会計の教科書	山岡 道男
207	さおだけ屋はなぜ潰れないのか?：身近な疑問から始める会計学	山田 真哉
208	アメリカの高校生が読んでいる金融の教科書	山岡 道男
209	暗号が通貨(お札)になる「ビットコイン」のからくり：「良貨」に似る3つの理由	吉本 佳生
210	宇沢弘文の経済学：社会的共通資本の論理	宇沢 弘文
211	ちゃんとわかる消費税	斎藤 貴男
212	アメリカの高校生が読んでいる税金の教科書	山岡 道男
213	世論 上	Lippmann Walter
214	世論 下	Lippmann Walter
215	よのなかを変える技術：14歳からのソーシャルデザイン入門	今 一生
216	ちいだい大人力検定：子ども以上大人未満の人間関係講座	石原 壮一郎
217	海外生活の達人たち：世界40か国の人と暮らし	齋藤 志緒理
218	聞く力、話す力：インタビュー術入門	松原 耕二
219	リーダー・パワー：21世紀型組織の主導者のために	Nye Joseph S. Jr.
220	なぜ、人は動かされるのか	Cialdini Robert B.
221	「イエス」を引き出す50の秘訣	Goldstein Noah J.
222	A geek in Japan	Garcia Hector
223	自由からの逃走	Fromm Erich
224	右翼と左翼はどちらがう?	雨宮 処凛
225	差別をしよう!	ホーキング青山
226	14歳からの社会学：これからの社会を生きる君に	宮台 真司
227	180日でグローバル人材になる方法：MBA留学に代わるプロフェッショナルへの新たな道筋	天野 雅晴
228	真夜中のデイズニーで考えた働く幸せ	鎌田 洋
229	日本がヤバイではなく、世界がオモシロイから僕らは動く。	太田 英基
230	ロボットの脅威：人の仕事なくなる日	Ford Martin
231	世界でふつうに働くために英語力より大切な39のこと	後藤 均
232	みえない未来相談室。：すきなことを仕事にする方法	なかがわ みどり
233	LGBTQを知っていますか?：「みんなと違う」は「ヘン」じゃない	日高 庸晴
234	14歳からわかる生活保護	雨宮 処凛
235	特別授業3.11君たちはどう生きるか	あさの あつこ
236	幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア	田中 優

No	書名	著者名	No	書名	著者名
237	学歴入門	橋本 俊詔	296	ボール物理化学	Ball David W.
238	学校と暴力：いじめ・体罰問題の本質	今津 孝次郎	297	物理化学	福地 賢治
239	18歳からの選挙Q&A：政治に新しい風を18歳選挙権	全国民主主義教育研究会	298	現代物理化学：Modern physical chemistry	寺嶋 正秀
240	受験国語が君を救う	石原 千秋	299	水の科学	神崎 愷
241	問う高校生：政治活動禁止：18歳選挙権が認められた今	久保 友仁	300	酸素の科学	神崎 愷
242	リベラル・アーツとは何か：その歴史的系譜	大口 邦雄	301	現代天文学史：天体物理学の源流と開拓者たち = History of modern astronomy	小暮 智一
243	世界を変えるエリートは何をどう学んできたのか？	Bain Ken	302	世界で一番美しい深宇宙図鑑：太陽系から宇宙の果てまで	Schilling Govert
244	ハーバード大学はどんな学生を望んでいるのか？日本人が抱く大いなる誤解	栄 陽子	303	14歳からの宇宙論	佐藤 勝彦
245	世界を変える思考力を養うオックスフォードの教え方	岡田 昭人	304	宇宙のはじまり：多田将のすごい授業	多田 将
246	勉強の技術：すべての努力を成果に変える科学的学習の極意	児玉 光雄	305	地図の世界史大図鑑	Brotton Jerry
247	はっきりわかる現代サイエンスの常識事典	成美堂出版編集部	306	日本の七十二候を楽しむ：旧暦のある暮らし	白井 明大
248	歴史でわかる科学入門	Bynum W. F.	307	雷の科学	雷研究会
249	サイエンスペディア1000 = Sciencepedia 1000	Parsons Paul	308	海の科学	中原 紘之
250	科学者は戦争で何をしたか	益川 敏英	309	地層の科学	西川 有司
251	ニセ科学を10倍楽しむ本	山本 弘	310	宝石の科学	宝石と生活研究会
252	理系バカと文系バカ	竹内 薫	311	生命はなぜそこに宿るのか	福岡 伸一
253	新ネットワーク思考：世界のしくみを読み解く	アルバート=ラズロ・バラバン	312	生物と無生物のあいだ	福岡 伸一
254	ホワット・イフ？：野球のボールを光速で投げたらどうなるか	Munroe Randall	313	世界は分けてもわからない	福岡 伸一
255	科学研究とデータのからくり：日本は不正が多すぎる！	谷岡 一郎	314	自然・人類・文明	Hayek Friedrich A. von
256	若き科学者への手紙：情熱こそ成功の鍵	Wilson Edward Osborne	315	自己組織化と進化の論理	Kauffman Stuart A.
257	「分かりやすい表現」の技術	藤沢 晃治	316	カビの科学	李 憲俊
258	「数学」の公式・定理・決まりごとがまとめてわかる事典	涌井 良幸	317	微生物の科学	中島 春紫
259	数学する身体	森田 真生	318	利己的な遺伝子	Dawkins Richard
260	数学に恋したくなる話	秋山 仁	319	盲目の時計職人：自然淘汰は偶然か？	Dawkins Richard
261	数学を使わない数学の講義	小室 直樹	320	協力と罰の生物学	大槻 久
262	バナナムタルスキーのパラドックス	砂田 利一	321	人間この未知なるもの	Carrel Alexis
263	直感を裏切る数学：「思い込み」にだまされない数学的思考法	神永 正博	322	色・大きさ・開花順で引ける季節の野草・山草図鑑	高村 忠彦
264	意味がわかれば数学の風景が見えてくる	野崎 昭弘	323	動物の死は、かなしい？：元動物園飼育係が伝える命のはなし	あべ 弘士
265	渋滞学	西成 活裕	324	14歳からわかる生命倫理	兩宮 処凛
266	高校数学の美しい物語	マスオ	325	意識はいつ生まれるのか：脳の謎に挑む統合情報理論	Massimini Marcello
267	世界の見方が変わる「数学」入門	桜井 進	326	人体キャラクター図鑑：からだの不思議がめちゃくちゃわかる！	坂井 建雄
268	関数の基礎とファイナンス数学	Barnett Raymond A.	327	体と体質の科学：原因と対処法をやさしく解説	水谷 仁
269	線形方程式と線形計画法	Barnett Raymond A.	328	脳に悪い7つの習慣	林 成之
270	論理・確率とマルコフ連鎖	Barnett Raymond A.	329	神経細胞の科学：産業に隠されたすばらしい生体の仕組み	倉橋 隆
271	微分積分 上	Barnett Raymond A.	330	毒と薬の科学	佐竹 元吉
272	微分積分 下	Barnett Raymond A.	331	生き抜くための整体：カラダとココロのゆるめ方	片山 洋次郎
273	フェルマーの最終定理：ピュthagorasに始まる、ワイルズが証明するまで	Singh Simon	332	「普通のかぜ」をきちんと診る	森 敬良
274	ドクター・ハルの折り紙数学教室	Hull Thomas	333	アルコール依存症から抜け出す本	樋口 進
275	先生、物理っておもしろいんですか？	パリティ編集委員会	334	これからのアレルギー性鼻炎対策	藤枝 重治
276	「物理・化学」の法則・原理・公式がまとめてわかる事典	涌井 貞美	335	朽ちていった命：被曝治療83日間の記録	日本放送協会「東海村臨界事故」取材班
277	人生に必要な物理50	Baker Joanne	336	ネット依存症のことがよくわかる本	樋口 進
278	14歳のための時間論	佐治 晴夫	337	精神科領域におけるけいれん・けいれん様運動	兼本 浩祐
279	真空の科学	木ノ切 恭治	338	適応障害のことがよくわかる本	貝谷 久宣
280	スピードの科学：おもしろサイエンス	小笠原 政次	339	うつ病の人に言いたいこと・いけないうつ病	有馬 秀晃
281	波の科学：音波・地震波・水面波・電磁波	谷村 康行	340	若者の「うつ」：「新型うつ病」とは何か	伝田 健三
282	磁力の科学	久保田 博南	341	起立性調節障害がよくわかる本：朝起きられない子どもの病気	田中 英高
283	電気と磁気の歴史：人と電磁波のかかわり	重光 司	342	食物アレルギーのすべてがわかる本	海老沢 元宏
284	電気にかけた生涯：ギルバートからマックスウェルまで	藤宗 寛治	343	医者になりたい君へ：心臓外科医が伝える命の仕事	須磨 久善
285	ポケットに電磁気を	勝本 信吾	344	よみがえる心臓：人工臓器と再生医療	東島 和子
286	液晶の歴史	Dunmur David	345	筋緊張に挑む：筋緊張を深く理解し、治療技術をアップする！	斉藤 秀之
287	宇宙を創る実験	村山 斉	346	美肌の科学	福井 寛
288	超ひも理論をバカに習ってみた：天才物理学者・浪速版教授の70分講義	橋本 幸士	347	生殖医療はヒトを幸せにするのか：生命倫理から考える	小林 亜津子
289	ヒッグス粒子の謎	浅井 祥仁	348	安眠の科学	内田 直
290	ニュートリノで探る宇宙と素粒子	梶田 隆章	349	脳を鍛えるには運動しかない！：最新科学でわかった脳細胞の増やし方	Ratey John J.
291	演習で理解する分子の対称と群論入門	Vincent Alan	350	スタンフォードのストレスを力に変える教科書	McGonigal Kelly
292	賢くはたらく超分子：シャボン玉から未来のナノマシンまで	有賀 克彦	351	栄養素キャラクター図鑑：たべることがめちゃくちゃ楽しくなる！	田中 明
293	分子図鑑：世界で一番美しい	Gray Theodore W.	352	サプリメント・機能性食品の科学	近藤 和雄
294	分子膜ってなんだらう？：シャボン玉から細胞膜まで	齋藤 勝裕	353	塩と砂糖と食品保存の科学	食品保存と生活研究会
295	ボール物理化学	Ball David W.	354	食品添加物キャラクター図鑑：気になるあの成分のホトがよくわかる！	左巻 健男

平成27年度 リベラルアーツコーナー図書一覧

(米子高専後援会寄贈)

No.	書名	著者名
355	ネズミと害虫退治の科学	中井 多喜雄
356	日本の知恵ぐすりを暮らしに：身近な食材でからだ調う	瀬戸内 和美
357	薬草の科学	佐竹 元吉
358	破壊の科学	谷村 康行
359	人類を変えた素晴らしい10の材料：その内なる宇宙を探検する	Miodownik Mark
360	新幹線をデザインする仕事：「スケッチ」で語る仕事の流儀	福田 哲夫
361	長もちの科学：良い製品を長く大事に使うための技術	京都工業繊維大学長らの科学研究センター
362	SFを実現する：3Dプリンタの想像力	田中 浩也
363	科学の現在を問う	村上 陽一郎
364	この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた	Dartnell Lewis
365	実践特許のすべてがわかる本：特許・実用新案・意匠・商標発明から出願まで	守谷 一雄
366	すばらしき特殊特許の世界	稲森 謙太郎
367	技術者・研究者のための特許の取り方	宮保 憲治
368	新技術者になるということ：これからの社会と技術者	飯野 弘之
369	「ものづくり」の科学史：世界を変えた《標準革命》	橋本 毅彦
370	ものづくりの反撃	中沢 孝夫
371	設計開発の品質マネジメント	久米 均
372	ついでに設計がわかる！匠の道具と使いこなしの知恵	國井 良昌
373	コンクリートの科学	コンクリートの劣化と補修研究会
374	おいしい水の科学	佐藤 正
375	音と振動の科学	山田 伸志
376	安全と安心の科学	村上 陽一郎
377	沈黙の春：生と死の妙薬	Carson Rachel
378	君が地球を守る必要はありません	武田 邦彦
379	エクセルギーと環境の理論：流れ・循環のデザインとは何か	宿谷 昌則
380	"Japan. Towards totalscape : contemporary Japanese architecture, urban planning and landscape"	吉良 森子
381	五重塔の科学	谷村 康行
382	日本の名城解剖図鑑	米澤 貴紀
383	木造建築の科学	高橋 俊介
384	心理と環境デザイン：感覚・知覚の実践	日本建築学会
385	トイレの科学	中井 多喜雄
386	1800 mechanical movements : devices and appliances	Hiscox Gardner Dexter
387	リンク機構99→∞：機構アイデア発想のネタ帳	山田 学
388	ついでに「設計書7冊」で勝負する技術者とね！わかりやすくやさしくなつ	國井 良昌
389	機械設計の企画書と設計書と構想設計：ついでにやさしい研修編	國井 良昌
390	グローバルエンジニアへのファーストステップ	山田 学
391	507 mechanical movements	Brown Henry T.
392	冷凍技術の科学	冷凍技術と生活研究会
393	オサムイズム：“小さな巨人”スズキの経営	中西 孝樹
394	宇宙を舞台に活躍する人々	モーニング編集部
395	宇宙飛行士の底力	モーニング編集部
396	いちから聞きたい放射線のほんとう：いま知っておきたい22の話	菊池 誠
397	やさしい放射線と向き合ってみよう！基礎知識	田崎 晴明
398	電気の歴史：人と技術のものがたり	高橋 雄造
399	14歳からの原発問題	雨宮 処凛
400	すごい家電：いちばん身近な最先端技術	西田 宗千佳
401	インターネットの光と影：被害者・加害者にならないための情報倫理入門	情報教育学研究会
402	ネットワークはなぜつながるのか：知っておきたいTCP/IP, LAN, 光ファイバーの基礎知識	戸根 勤
403	アンドロイドは人間になれるか	石黒 浩
404	どうすれば「人」を創れるか：アンドロイドになった私	石黒 浩
405	人と芸術とアンドロイド：私はなぜロボットを作ったのか - Humans, art, and androids : the reason why I create robots	石黒 浩
406	実践ロボットプログラミング：LEGO Mindstorms NXTで目指せロボット！	藤吉 弘亘
407	ロボットとは何か：人の心を映す鏡	石黒 浩
408	ロボットとの付き合い方、おしえます。	瀬名 秀明
409	海洋船舶の科学	船と海の研究会
410	未来兵器の科学	防衛技術協会
411	地下資源の科学	西川 有司
412	元素と金属の科学	坂本 卓
413	鍍の科学	堀石 七生

No.	書名	著者名
414	鉄鋼の科学	菅野 照造
415	貴金属の科学	貴金属と文化研究会
416	アルミの科学	アルミと生活研究会
417	レアメタルの科学	山口 英一
418	粉体の科学	内藤 牧男
419	ガラスの科学	ニューガラスフォーラム
420	リップ化粧品科学の科学	柴田 雅史
421	シリコンとシリコーンの科学	信越化学工業
422	接着の科学	高性能接着研究会
423	身近な金属製品の科学	坂本 卓
424	椅子の科学	心地よい椅子を科学する研究会
425	紙の科学	紙の機能研究会
426	発酵食品の科学	坂本 卓
427	お酒の科学	佐藤 成美
428	食品保存の科学	食品保存と生活研究会
429	足と靴の科学	アシックススポーツ工学研究所
430	人生がとぎめく片づけの魔法	近藤 麻理恵
431	土壌の科学	土壌と生活研究会
432	ボクたちに殺されるいのち	小林 照幸
433	日本の漁港を訪ね地魚に喰る：漁師の活気と海の幸	小西 康隆
434	塩：地球からの贈り物	片平 孝
435	仕事の流儀	Hill Napoleon
436	地域再生の戦略：「交通まちづくり」というアプローチ	宇都宮 浄人
437	インバウンドツーリズムハンドブック：訪日外国人旅行者への対応と心得	日本文芸社
438	モチーフで読む美術史 1	宮下 規久朗
439	モチーフで読む美術史 2	宮下 規久朗
440	アート鑑賞、超入門！：7つの視点	藤田 令伊
441	イタリアを描く	中山 繁信
442	『坊っちゃん』の時代：凜冽たり近代お生彩あり明治人	関川 夏央
443	秋の舞姫	関川 夏央
444	ゲゲゲのゲート：水木しげるが選んだ93の「賢者の言葉」	水木 しげる
445	いちえふ：福島第一原子力発電所労働記 1	竜田 一人
446	いちえふ：福島第一原子力発電所労働記 2	竜田 一人
447	いちえふ：福島第一原子力発電所労働記 3	竜田 一人
448	老子	パラエティ・アートワークス
449	方法序説	デカルト
450	自由論	ミル
451	純粋理性批判	カント
452	国富論	アダム・スミス
453	「ない仕事」の作り方	みうらじゅん
454	ニッポンの風景をつくりなおせ：一次産業×デザイン=風景	梅原 真
455	0円ハウス	坂口 恭平
456	色の科学	五感教育研究所
457	日本の伝統色を愉しむ：季節の彩りを暮らしに	長澤 陽子
458	日本の配色 = Traditional Japanese color palette	濱田 信義
459	デザインを科学する：人はなぜその色や形に惹かれるのか？	ポーポー・ポロダクション
460	問題解決に効く「行為のデザイン」思考法	村田 智明
461	レゴアイデアブック：なんでもつくれる！	Lipkowitz Daniel
462	レゴ：ブロックの世界	Lipkowitz Daniel
463	学校では教えてくれない人生を変える音楽	雨宮 処凛
464	アメリカ映像文学に見る少数民族	日本マラマッド協会
465	ステイプン・スピルバーク論	南波 克行
466	日本のアニメは何がすごいのか	津堅 信之
467	スポーツ精神生理学	山崎 勝男
468	ストレッチングの科学	鈴木 重行
469	柔軟性の科学	Alter Michael J.
470	世界に誇る日本のことば大賞：現代語訳：『茶の本』[武土道] [代表的日本人]	岡倉 覚三
471	「分かりやすい説明」の技術：最強のプレゼンテーション15のルール	藤沢 晃治
472	外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か	白井 恭弘

No	書名	著者名
473	話す力：自分の言葉を引き出す方法	Carnegie Dale
474	日本語教室	井上 ひさし
475	日本の大和言葉を美しく話す：こころが通じる和の表現	高橋 こうじ
476	美しい日本語の風景	中西 進
477	辞書から見た日本語の歴史	今野 真二
478	「太宰」で鍛える日本語力	出口 汪
479	NHK日本語発音アクセント辞典	日本放送協会放送文化研究所
480	常用漢字の歴史：教育、国家、日本語	今野 真二
481	日本語語感の辞典	中村 明
482	生き延びるための作文教室	石原 千秋
483	言いたいことが伝わる上手な文章の書き方：「うまいね」とほめられる!	安藤 智子
484	必ず書ける「3つが基本」の文章術	近藤 勝重
485	理科系の作文技術	木下 是雄
486	「なぜ」と「どうして」を押さえて、しっかりまとめた文章を書く	前田 安正
487	日本語の活かし方	福嶋 隆史
488	早大院生と考えた文章がうまくなる13の秘訣	近藤 勝重
489	「分かりやすい文章」の技術：読み手を説得する18のテクニック	藤沢 晃治
490	書く力は、読む力	鈴木 信一
491	漢字の歴史：古くて新しい文字の話	笹原 宏之
492	英語教育論争から考える	鳥飼 玖美子
493	英語はもっと科学的に学習しよう	白井 恭弘
494	起きてから寝るまで英語表現700	荒井 貴和
495	もつとやましい起きてから寝るまで英語表現700 1冊の秘訣「もつとやましい」を全部英語で書けるようになる	辰巳 友昭
496	文章を書く：「もつと読みたい」と思わせる：読まれるエッセイの書き方	加藤 明
497	エッセイ脳：800字から始まる文章読本	岸本 葉子
498	学校では教えてくれない日本文学史	清水 義範
499	夏目漱石、読んじゃえば?	奥泉 光
500	山椒大夫・高瀬舟：他四篇	森 鴎外
501	こころザワつく放哉：コトノと俳句	尾崎 放哉
502	子どもたちの遺言	谷川 俊太郎
503	図説地図とあらすじで読む古事記と日本書紀	坂本 勝
504	現代語訳：日本書紀：抄訳	菅野 雅雄
505	まんがとあらすじでわかる古事記と日本書紀	坂本 勝
506	眠れないほど面白い『古事記』	由良 弥生
507	読めば読むほど面白い『古事記』75の神社と神様の物語	由良 弥生
508	藪の中・将軍	芥川 龍之介
509	羅生門；鼻；芋粥	芥川 龍之介
510	蜘蛛の糸・地獄変	芥川 龍之介
511	人間失格	太宰 治
512	富嶽百景・走れメロス：他八篇	太宰 治
513	海と毒薬	遠藤 周作
514	現代語で読む舞姫	森 鴎外
515	現代語で読むたけくらべ	樋口 一葉
516	現代語で読む野菊の墓	伊藤 左千夫
517	現代語で読む坊っちゃん	夏目 漱石
518	にこりえ・たけくらべ	樋口 一葉
519	風立ちぬ・美しい村	堀 辰雄
520	黒い雨	井伏 鱒二
521	下町ロケット	池井戸 潤
522	七つの会議	池井戸 潤
523	ルーズヴェルト・ゲーム	池井戸 潤
524	氷壁	井上 靖
525	天平の薨	井上 靖
526	青春の門 筑豊篇上	五木 寛之
527	青春の門 筑豊篇下	五木 寛之
528	檸檬(レモン)・冬の日：他九篇	梶井 基次郎
529	伊豆の踊子；花のワルツ：他二編	川端 康成
530	雪国	川端 康成
531	山の音	川端 康成

No	書名	著者名
532	蟹工船；党生活者	小林 多喜二
533	マグマ	真山 仁
534	仮面の告白	三島 由紀夫
535	金閣寺	三島 由紀夫
536	羊と鋼の森	宮下 奈都
537	ふたつのしるし	宮下 奈都
538	阿部一族：他二編	森 鴎外
539	雁	森 鴎外
540	舞姫；うたかたの記	森 鴎外
541	友情	武者小路 実篤
542	銀の匙	中 勘助
543	李陵；山月記；弟子；名人伝	中島 敦
544	門	夏目 漱石
545	それから	夏目 漱石
546	こころ	夏目 漱石
547	軽蔑	中上 健次
548	岬	中上 健次
549	野火；ハムレット日記	大岡 昇平
550	死者の奢り・飼育	大江 健三郎
551	坂の上の雲 1	司馬 遼太郎
552	坂の上の雲 2	司馬 遼太郎
553	坂の上の雲 3	司馬 遼太郎
554	坂の上の雲 4	司馬 遼太郎
555	坂の上の雲 5	司馬 遼太郎
556	坂の上の雲 6	司馬 遼太郎
557	小僧の神様：他十篇	志賀 直哉
558	破戒	島崎 藤村
559	痴人の愛	谷崎 潤一郎
560	刺青・秘密	谷崎 潤一郎
561	キッチン	吉本 ばなな
562	超・反知性主義入門	小田嶋 隆
563	ふざける力	ワクサカ ソウヘイ
564	グツとくる山頭火；コトノと俳句	春陽堂書店
565	十七歳だった!	原田 宗典
566	孤独の価値	森 博嗣
567	はじめからその話をすれればよかった	宮下 奈都
568	ネットで「つながる」ことの耐えられない軽さ	藤原 智美
569	惜襟荘だより	佐伯 泰英
570	「やりがいのある仕事」という幻想	森 博嗣
571	大学で読むハリー・ポッター	板倉 敏一郎
572	カズオ・イシグロ：「日本」と「イギリス」の間から	莊中 孝之
573	レイチェル・カーソン	パピルス
574	ジョン・ダン全詩集	Donne John
575	ジャングル	Sinclair Upton
576	火星の人 上	Weir Andy
577	火星の人 下	Weir Andy
578	ギヴァー：記憶を注ぐ者	Lowry Lois
579	新編日本の面影 1	Hearn Lafcadio
580	新編日本の面影 2	Hearn Lafcadio
581	夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録	Frankl Viktor Emil

※著者が複数の場合は筆頭著者のみ記載。翻訳者は省略。

平成28年度 読書会についてのお知らせ

読んだ作品について、学科、年齢の垣根を取り払い語り合う。うまく語れなくても、他の人の感想を聞く。
そんな時間があっても… 今年度も5回実施しますので、是非参加してみてください。

第1回	5月12日(木) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『蜘蛛の糸・杜子春』 芥川 龍之介(新潮文庫)	図書館カウンターで 前日までに参加申し込みを してください。
第2回	7月14日(木) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『光媒の花』 道尾 秀介(集英社文庫)	図書館カウンターで 前日までに参加申し込みを してください。
第3回	10月13日(木) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『車輪の下』 ヘルマンヘッセ(著),高橋 健二(翻訳) (新潮文庫)	図書館カウンターで 前日までに参加申し込みを してください。
第4回	12月22日(木) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『おとなの教養 ー私たちはどこから来て、 どこへ行くのか?』 池上 彰 (NHK出版新書)	図書館カウンターで 前日までに参加申し込みを してください。
第5回	平成29年 2月23日(木) 15:40~	事前に読んでおいて欲しい作品 『紙つなげ! 彼らが本の紙を造っている』 佐々 涼子 (早川書房)	図書館カウンターで 前日までに参加申し込みを してください。

※事前に読んでおいて欲しい作品は図書館で準備しますが、数に限りがあるので留意してください。
※興味のある回だけでもかまいませんので、お気軽にご参加ください。 米子高専リベラルアーツセンター長

平成28年度 米子高専 文化セミナー

第1回 5月22日(日) 「日本語と数字と英語」 米子工業高等専門学校
教養教育科 青砥 正彦
10:00~12:00 会場: 中海テレビ放送センタービル1階 会議室

共通の母語を持たない集団が意思疎通に用いる言語をリンガ・フランカ(伊: Lingua franca)といいます。現在、英語は世界中でリンガ・フランカとして幅広く使われています。さて、今回のセミナーでは、もう一つの世界共通語である数字を題材にして、異文化理解をしてみようと思います。数字は日本でもアメリカでも同じことを意味しているのでしょうか?実は、文化が違えば同じ数字でも意味が異なることがあります。当たり前のこととして思っている物事も外国との違いを知ること、その意味が見えてくることがあります。

第2回 6月26日(日) 「門脇重綾と和歌」 米子工業高等専門学校
教養教育科 渡邊 健
10:00~12:00 会場: 米子高専図書館2階 アカデミックシアター

境港市渡町出身の幕末の志士・門脇重綾(しげあや)の和歌についてお話しします。重綾は渡町の日御崎(ひのみさき)神社の神官であり、国学と神道を修め、和歌にも秀でていました。鳥取藩に召し出されて活躍し、明治維新後は新政府に仕え、教部大丞にまで至ります。優れた紀行文の『西遊紀事』や没後に刊行された『蠶園集(かくえんしゅう)』という歌集がありますが、一般にはほとんど知られていません。この度、私は境港歴史楽会の方々と『蠶園集』の翻刻作業のお手伝いをする機会に恵まれました。今年は重綾生誕190年の記念すべき年でもあり、その和歌の魅力をお伝えしたいと思います。

第3回 10月23日(日) 「ロボットと人工知能」 米子工業高等専門学校
電子制御工学科 原田 篤
10:00~12:00 会場: 中海テレビ放送センタービル1階 会議室

従来、ロボットという言葉からは工場で使われる腕型のような産業用ロボットやSFの世界で活躍する想像上の産物がイメージされると思われます。それが昨今では、ある程度身近にロボットを目にする機会が増えてきました。例えば、ルンバのような掃除ロボットやペッパーのような人型ロボットなど各種ロボットが工場などの生産現場から家庭への進出が行われています。そこで、今回のセミナーではロボットとはどのようなものかから、そのロボットの頭脳である人工知能とは何かを紹介したいと思います。

第4回 11月27日(日) 「縁の下の力持ち 工作機械によるものづくり」 米子工業高等専門学校
機械工学科 藤田 剛
10:00~12:00 会場: 中海テレビ放送センタービル1階 会議室

現在、私たちの身の回りには多種多様な家電製品、乗り物などの工業製品があふれており、日々の生活が豊かなものになっています。その裏側には、産業機械による大量生産による恩恵がある訳ですが、それらの機械を製造するためにも機械が必要となります。それは「工作機械」と呼ばれるもので、機械を造る機械として「マザーマシン(母なる機械)」とも呼ばれています。

本セミナーでは、主に工作機械について、その種類や歴史、実際のものづくりについてのお話をさせていただきます。間接的ではありますが、誰もがその恩恵を受けている機械加工について、興味を持っていただければと思います。

本文化セミナーは、身近な疑問から最先端技術に至るまで様々な課題をテーマとした講演を年4回ずつ開催しております。ぜひ会場にお立ち寄りください。